

科目ナンバリング		U-LAS01 10001 LJ38					
授業科目名 <英訳>	日本史 I Japanese History I			担当者所属 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 高階 絵里加 人文科学研究所 准教授 福家 崇洋 人文科学研究所 助教 池田 さなえ		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	歴史・文明(基礎)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義
開講年度・ 開講期	2019・前期	曜時限	月2	配当学年	全回生	対象学生	全学向
【授業の概要・目的】							
日本の近代とは、ほぼ19世紀から20世紀前半の時期にあたる。江戸後期には鎖国状態ではあったものの少しずつ海外からの情報も入ってくるようになり、明治維新を境に日本は大きく西洋に向かって門戸を開くことになる。このように日本が現代につながる大きな変革を成し遂げた時期、社会や文化はどのように変化したのか、皇室財産、美術、その他のテーマについて、「開化」と「変革」の観点から考える。							
【到達目標】							
近代の最も大きな変革期であった明治期の社会と文化について歴史史料と視覚資料にもとづいて理解し、日本の近代史についての幅広く多様な視点の獲得をめざす。							
【授業計画と内容】							
3名の講師が日本の近代史に関連するそれぞれのテーマで各4～5回の講義を行う。							
<p>1．テーマ：美術と明治維新 担当：高階絵里加 開国後、はじめて本格的な西洋芸術の技法や概念に遭遇し大きく変化した日本の美術について、江戸から明治への社会の移り変わりや西洋画法との違い、開国と美術、明治前期の洋画、洋画の発展と伝統復興、等のテーマをとりあげ、絵画を中心にスライドで具体的な作品を見ながら考える。</p> <p>第1回 江戸から明治へ 西洋画法との違い 第2回 開国後の美術 蕃書調所から初期の渡欧画家たちへ 第3回 工部美術学校と明治中期の渡欧画家たち 第4回 伝統復興運動と東京美術学校、洋画の発展と主題の模索</p> <p>2．テーマ：日本近代と文明開化 担当：福家崇洋 幕末から近代初期における日本文化の諸相に焦点をあてて近代化の内実について考察する。西洋化をめぐる相剋を縦系、同時代の社会的状況を横系として、両者の交錯のなかから日本文化の変容と定着を、歴史資料、視覚資料を用いて具体的に明らかにしていく。</p> <p>第1回 日本近代と「文明開化」(1) 第2回 日本近代と「文明開化」(2) 第3回 日本近代と「文明開化」(3) 第4回 日本近代と「文明開化」(4)</p>							
----- 日本史 I (2)へ続く -----							

日本史Ⅰ(2)

第5回 日本近代と「文明開化」(5)

3. テーマ 近代日本における皇室財産の形成 政治史研究の手法を用いて

担当：池田さなえ

天皇を中心として新しい国家づくりを行う明治政府において、法制度や行政機構の整備などと同様かそれ以上に課題とされていたのは皇室制度の整備であった。特に、皇室の様々な活動を支える皇室財産の確立は急務であった。皇室財産はいかなる主体のいかなる意図のもとに形成され、そしていかにして運用されていたのか。本授業では、皇室財産の中でも明治20年代にのみ存在した御料鉾山に着目し、政治指導者たちの試行錯誤の過程を、彼らが残した書簡や日記などの文字史料から読み解いていく。

第1回 皇室財産研究の到達点と課題

第2回 佐渡・生野御料鉾山の設定と御料鉾山事業の開始

第3回 御料鉾山事業の方針転換

第4回 御料鉾山事業を支えたもの 法制度的条件を考える

第5回 御料鉾山世伝御料化計画から御料鉾山払下げへ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

定期試験 論述式解答。

持ち込みは不可。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学習(予習・復習)等】

授業中に別途指示する。

【その他(オフィスアワー等)】

受講人数は教室定員を上限とする。

定員を超えた場合には無作為に抽選を行う。